

令和4年度
胆振教育研究所

今年度の研究について

胆振教育研究所では様々な事業を行っています。今回は「理論研究」の今年度の研究内容について紹介します。



理論研究

- 1 研究主題 **個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり**（2年次）
- 2 主題設定の理由

教育改革の動向より

Society5.0 時代が到来し、急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識することが求められています。また、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

これらの資質・能力を育むためには、新学習指導要領の着実な実施が重要です。新学習指導要領では資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、児童生徒が「どのように学ぶか」という主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要です。

私たち教員は、このことを踏まえて、全ての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを推進することが求められます。

研究所の研究から

令和2年度の本教育研究所の理論研究「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」から、次のようなことが分かりました。

- 胆振管内の多くの学校で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりが進んだ。
- 単元デザイン例を作成することにより、指導計画と学びの実践ポイントを明確にすることができた。
- 今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が重要になる。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても子どもたちの多様な興味を引き出し、学びを提供できるように、先進的な実践や各学校での具体的な取組を交え、研究を深めていくことが大切だと考えます。

3 研究内容

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの授業改善
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践について
- ・ 各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイント

教育理論に関する研究
の紀要として発行
(2月末予定)



令和4年度

研究委託校・実践校

今年度、胆振教育研究所と共同で研究を進めていただく、研究委託校と実践校が決まりましたので、その研究の概要をお知らせします。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、公開研究会を実施しない学校もありますが、先生方の研修の機会として研究会に多くの方が参加していただけると幸いです。



洞爺湖町立とうや小学校

▶校長 山下 文人
▶研究委員 岡垣 健一

9月15日(木)

単式でも複式でも使える
「学びの質を高める」学習指導の探究

研究領域

算数科

～少人数のメリットを活かした
学習指導の改善と工夫～

壮瞥町立壮瞥中学校

▶校長 松岡 賢晃
▶研究委員 輪島 隆史

11月2日(水)

教育の連続性と豊かななかかわりの中で主体的に
学びを高め、未来のふるさとをつくる子の育成

研究領域

総合的な
学習の時間

～自らを見つめ、
想像力と表現力を高め、よりよい
未来を創造する生徒を目指して～

白老町立萩野小学校

▶校長 田村 雅嘉
▶研究委員 澁谷吏樹丸

11月25日(金)

多様な問題解決の過程を通して、
共に基礎・基本を身に付ける子の育成

研究領域

算数科

安平町立安平小学校

▶校長 中島 勉
▶研究委員 加藤 雅史

今年度予定なし

「確かな学力」を
身に付ける子の育成

研究領域

国語・
算数科

～「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業作りを通して～

厚真町立厚真中学校

▶校長 北尾 稔
▶研究委員 大村 悠斗

今年度予定なし

主体的に学び、
他者と高め合う生徒の育成

研究領域

各教科

むかわ町立宮戸小学校

▶校長 金澤 堅一
▶研究委員 結城 慎一

11月25日(金)

「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた指導法の研究

研究領域

複式授業
算数科

～極少人数学級における
個別最適な学び、協働的な
学びの向上を目指して～

登別市立鷺別中学校

▶校長 鈴木 恭朗
▶研究委員 山川 竜巳

10月27日(木)

「学び合い」を通して、自ら物事を捉え、
思考していける生徒の育成

研究領域

各教科

～各教科における主体的・対話的で
深い学びを通して～

伊達市立伊達中学校

▶校長 高橋 秀壽
▶研究委員 鳥海 智郎

11月18日(金)

・生徒が確実に理解できる授業（1年生）
・生徒が主体的に考え、
学びを深められる授業（2・3年生）

研究領域

各教科



白老町立白老小学校

▶校長 仲見 真樹
▶研究委員 下澤 友香

今年度予定なし

一人一人の学びをつなぎ、個別最適な
学びを目指した授業づくり

研究領域

算数科・
国語科・
自立活動

～「主体的・対話的で深い学び」の
視点からの授業改善を通して～

豊浦町立礼文華小学校

▶校長 千葉 康弘
▶研究委員 奥澤 彩

今年度予定なし

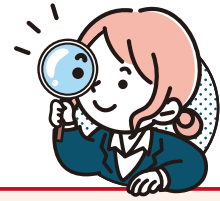
目標に向かって努力し、
学び進める子どもの育成

研究領域

算数科

～「主体的な学び」を実現する
算数の授業づくりや
家庭学習の推進を通して～

今回は、デジタル革新をきっかけに、第5段階の新たな社会と言われる「Society5.0」と現代教育の関わりについてお伝えしたいと思います。



Society5.0とは

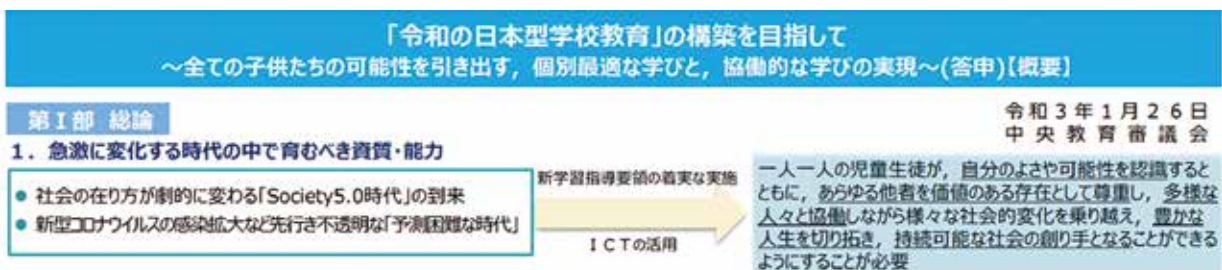
サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）

参照 内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/



左の図にあるように、具体的には、AIやロボットなどを活用して、現代社会が抱える問題を解決し、持続可能な社会を実現させようということだと言われています。

さて、この Society5.0ですが、教育界に大きな影響を与えています。



参照 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_1-4.pdf

上記の中央教育審議会答申の中で「Society5.0時代」の到来を受け「新学習指導要領の着実な実施」と「ICT の活用」により、一人一人の児童生徒が持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要と述べられています。

Society5.0と現代教育の関わりについての詳細は胆振教育研究所発行の令和3年度研究紀要をご覧ください。

<http://www.iburi-education.jp/info/kiyou235>

当然ではありますが、国（文部科学省）の方針が、普段の私たちの教育現場に大きく影響しています。常に最新の情報に触れ、自分の授業実践や授業改善に生かしていきたいものです。

胆振教育研究所では、「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり」について研究しています。ホームページにも掲載していますので、日々の授業改善の参考にしていただければと思います。